

医療法人メディライフ法人研修会を開催しました。

平成28年6月4日に西知多リハビリテーション病院会議室にて、学校法人慈恵大学理事である高橋則子先生を招き、下記テーマの講演会を開催しました。

「フィッシュ!哲学から学ぶ 笑顔あふれる職場作り」



※フィッシュ哲学とはアメリカ西海岸での魚市場で導入された人材マネジメント手法です。「仕事を楽しむ」「人を喜ばせる」「注意を向ける」「態度を選ぶ」という四つの行動原理を意識して実際に仕事に取り組む事とされています。



機能障害により引き起こされた生活障害に対して、早期から充実したリハビリテーションを提供しています。患者さまの自立性を高め、生活再建を果たせるよう共に努力し、ご支援いたします。

〒478-0021 愛知県知多市岡田字野崎13 TEL(0562)54-3500 FAX(0562)54-3502

診療時間：9:00～12:00(月～土) 診療科目：リハビリテーション科・内科 ◎通所リハビリテーション(1～2h)◎訪問リハビリテーション

駐車禁止

西知多リハビリテーション病院
薬局 駐車場

当院へお越しの方へお願い

病院の西側の駐車場（正面から見て左側）は、マンションの駐車場になります。絶対に駐車しないで下さい。よろしくお願い申し上げます。





医療法人 メディライフ
西知多リハビリテーション病院
TEL(0562)54-3500
FAX(0562)54-3502
ホームページアドレス
<http://medi-life.jp/>

随時院内見学お受けします



西知多リハビリテーション病院情報誌

西リハだより

総合相談窓口「支援センター」について

西知多リハビリテーション病院が開院し、お陰様で1年が経過いたしました。

地域の皆様、関係医療機関様、ケアマネジャーをはじめとする在宅支援事業所の皆様のご協力とご理解のもと、患者様の治療とリハビリテーションに専念することができております。

今後も感謝の気持ちを忘れず、患者様・ご家族に真摯に向き合い邁進してまいります。

当院の「支援センター」は、相談・連携・調整を行う窓口として、入院中の患者様がより安心して入院生活を送ることができるよう、看護師1名と医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)4名が専任として配置されています。

支援センターの看護師は、急性期病院から患者様が不安なく、リハビリができる最良の状態で当院にお移り頂けるように、病院間の連携業務を担っております。

医療ソーシャルワーカー(MSW)は、社会福祉の立場から、患者様やご家族が抱える様々な心配ごととの解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図る業務を行います。時には、ご家族や地域の架け橋となり、患者様の代弁者となれるよう心のこもった対応を心がけております。

当院退院後は約9割の患者様が、ご自宅に戻り生活をされております。ご状況により、施設入所をご案内する場合もございますが、どの患者様におかれましても、お一人お一人の状況を理解し、その方に合った方法で丁寧に対応するよう努めております。

患者様が、無理なく緩やかに次の生活にお移り頂けることが私たちの願いです。

まだまだ未熟な病院ではありますが、今後もよろしくお願い申し上げます。

入院に関すること以外も、遠慮なくご相談ください!!

例えば…

- ・骨折をして手術後に退院したが家でうまく歩けない。
- ・前に作った足の装具が合わなくなって痛い。
- ・最近食べ物をこぼすことが多くなった、むせるようになった。
- ・入院費が心配。装具を作る時の負担は?使える制度を知りたい。
- ・西知多リハビリテーション病院ってどんなところ?見学させて。など

電話 **0562-54-3503** (直通)



急性期病院から回復期病院へ 転院された患者様の声

(西知多総合病院から西知多リハビリテーション病院)
知多市内在住 酒井勢津子 様

診断名: 右大腿骨転子部骨折、骨接合術施行
急性期病院: 西知多総合病院 入院20日間
回復期病院: 西知多リハビリテーション病院
入院64日間
現在の生活期: 以前と同じ独居生活に戻られ、週一回
デイケアへ通院リハビリを行っている。



<左から2人目 酒井様>

1 ケガをする前の生活はどうか？

家では一人の生活だったが、家族が協力してくれて、買い物はお嫁さんと一緒に行っており、食事は、一緒に食べていました。また先代から続いている自営の店番をされており、(朝9時頃から17:30頃まで)座りながらできるお茶出しをするのが楽しみでした。普段は、なんでも自分で行っていたが、両膝が痛かったのであまり遠出はできなかった。

2 病院生活でつらかったことは？

脚が痛く動けなかったこと。

3 病院生活でよかったことは？

お友達がたくさんできたこと。

4 転院前や退院前に不安になったことは？

急性期から回復期→西知多総合病院で一緒だった人が入院していたので不安はなかった。西知多リハビリテーション病院から退院→ある程度動けていたし、外泊をしていたのでそれほど不安はなかった。

5 実際の退院後の生活は？

今回骨折したところは順調に良くなってきており痛みもなくなりました。しかし以前から痛い膝は、天気が悪いと痛むのももう少し膝の痛みがなければ生活しやすいのだが。

6 今後やりたいことは何ですか？

昼間は、店に行きお客さんと話をするのが楽しみであり、今後も続けていきたい。

今後も患者様の声を大切にしながらリハビリテーションに取り組んでいきたいと考えています。これからもよろしくお願いたします。 西知多リハビリテーション病院

●小児リハビリテーション

当院では、2015年5月の開院以来、小児リハビリテーションを行っています。

脳性麻痺、発達障害、自閉症などの疾患をもつ子供たちが、外来リハビリテーションで通院しています。子ども達の発達を理学療法(PT)、作業療法(OT)、言語療法(ST)の各専門スタッフがチームを組み、両親や家族と一緒にリハビリテーションを行っています。

理学療法は、体を大きく動かすことで、座る・立つ・歩くなどの基本的動作の獲得や応用動作としてジャンプ、自転車、縄跳びの子供たちの目標をご家族と考え、楽しみをもったリハビリテーションを行います。また、筋力の強化・増強、関節の二次的な変形予防のための装具療法、歩行訓練なども行います。

作業療法は、「物に触る」「見る」「音楽を聴く」など子供の遊びを通して、体を動かすだけでなく笑顔が出るようなリハビリテーションを行っています。また、「できた」と自信がもて生活面での自立を促し、リハビリテーションが楽しく思えるようにアプローチを行っています。

言語聴覚療法は、手指、口腔、知的、言語、対人機能など様々な角度から発達の様子を確認し、コミュニケーションや言語発達のサポートを行っています。またご家族の思いを聞き取り、子供の精神的な成長へとつながるようにアプローチを行っています。

いろいろな専門職が関わることで、いろいろな視点から問題点にアプローチし、本人、家族の生活の質が少しでも高くなるようにお手伝いさせていただきます。

何かありましたらお気軽にご相談ください。

